

# セルフプロビジョニング機能 - アウトオブボックス エクスペリエンス

## 内容

### [概要](#)

[使用開始時のエクスペリエンス](#)

[設定要件](#)

[ユニバーサル デバイス テンプレートの確認](#)

[ユニバーサル回線テンプレート](#)

[自動登録](#)

[認証モード](#)

[Require Authentication](#)

[No Authentication Required](#)

[ユーザ プロファイル](#)

[エンドユーザ](#)

[電話機のエンド ユーザ エクスペリエンス](#)

[トラブルシューティング](#)

## 概要

このドキュメントでは、新しいセルフプロビジョニング機能について説明します。この機能によって、エンド ユーザまたは管理者は、プロビジョニングされていない電話機を最小限の管理作業で Cisco Unified Communications Manager ( CUCM ) システムに追加することができます。電話機を追加するには、電話機をネットワークに接続し、いくつかのプロンプトに従ってユーザを識別します。

XPS は新しい Web アプリケーションです。現時点では、セルフプロビジョニングが XPS の唯一のリソースです。XPS セルフプロビジョニングの目的は、管理者による電話機の設定作業をできるだけ簡単にすることです。セルフプロビジョニングでは、認証されたユーザのプライマリ エクステンションで電話機がプロビジョニングされます。設定が完了したら、電話機でユーザ ID と PIN を入力し、プロビジョニングされる内線番号を確認します。

この作業をできるだけ簡単にするために、セルフプロビジョニングの必須設定手順のいくつかは CallManager ( CM ) のインストールに追加されましたが、それ以外に管理者が実行する必要がある手順がまだあります。

## 使用開始時のエクスペリエンス

この機能により、エンド ユーザが管理者に連絡しなくてもデスク フォンまたはソフト クライアントを直接追加できるので、エンドユーザの使用開始時のエクスペリエンスが改善されます。電話機に CM が示されると、電話機による自動登録が実行され、その電話機のアイドル URL が設定されます。ユーザがユーザ ID と PIN を入力すると、CM で認証され、プライマリ エクステンションが決定されます。その後、ユーザは、電話機をそのプライマリ エクステンションでプロビジョニングすることを確認するように求められます。確認すると、電話機がプロビジョニングされ、リセットされます。

# 設定要件

## ユニバーサル デバイス テンプレートの確認

自動登録用に割り当てられるユニバーサル デバイス テンプレート ( UDT ) は、「Auto-registration Template」という名前の UDT である必要があります。この UDT は、インストール後にセルフプロビジョニング専用で作成され、XPS セルフプロビジョニング サービスを指すアイドル URL を持ちます。デフォルトでは、このアイドル URL に、ネットワークにアクティブな DNS がない場合のホスト名が含まれます。このホスト名 IP アドレスは変更できます。

**Universal Device Template Configuration**

Save  Delete Expand All  Add New

▼ Template Information

Name \*

▼ Required and Frequently Entered Settings

Device Description  

Device Pool \*  [View Details](#)

Device Security Profile \*

SIP Profile \*

Phone Button Template \*

▶ Device Settings

▶ Device Routing

▶ Phone Settings

▶ Protocol Settings

▶ Phone Buttons Configuration

▶ IP Phone Services Subscription

▶ Security Settings

▼ Service Configuration Settings

Information

Directory

Messages

Services

Authentication Server

Proxy Server

Idle

Idle Timer (seconds)

## ユニバーサル回線テンプレート

次のスクリーンショットは、ユニバーサル回線テンプレートで、コール権限をルートパーティションとコーリング検索スペース (CSS) およびその他の回線設定のフォームで設定する方法を示しています。

## Universal Line Template Configuration

 Save  Delete Expand All  Add New

### ▼ Template Information

Name \*   Urgent Priority

### ▼ Required and Frequently Entered Settings

Line Description:  

Route Partition:  ▼

Voice Mail Profile:  ▼

Calling Search Space:  ▼

Alerting Name:  

External Call Control Profile:  ▼

## 自動登録

エンドユーザがセルフプロビジョニング サービスを使用して電話機を関連付けられるようにするには、まず、電話機が自動登録される必要があります。デフォルトでは、CM の自動登録機能はオフになっています。

自動登録は「Cisco Unified CM Configuration」ページで設定できます。管理者は、ユニバーサルデバイス テンプレート、ユニバーサル回線テンプレート、および有効なディレクトリ番号の範囲を指定する必要があります。これを設定すると、ユーザ/管理者が電話機を接続 (この CM に設定された TFTP を使用) するたびに、電話機が自動登録を実行し、上記の範囲からディレクトリ番号を取得します。

**Auto-registration Information**

Universal Device Template\* Auto-registration Template

Universal Line Template\* Sample Line Template with TAG usage examples

Starting Directory Number\* 5000

Ending Directory Number\* 6000

Auto-registration Disabled on this Cisco Unified Communications Manager

## 認証モード

ここでは、ユーザのデバイスをプロビジョニングする際に認証が必要かどうかを決定するオプションを示します。以下の2種類のモードがあります。

### Require Authentication

このモードでは、ユーザは、パスワードまたは PIN を使用して、ユーザ プロファイルの権限に基づいてデバイスを認証し、プロビジョニングすることができます。さらに、管理者は、エンドユーザの代わりに認証するために、以下の認証コードを設定できます。

- Allow authentication for users only (via Password/PIN) : このモードでは、ユーザが、パスワードまたは PIN を使用してデバイスを認証し、プロビジョニングすることができます。
- Allow authentication for users (via Password/PIN) and Administrators (via Authentication Code) : このモードでは、管理者がエンドユーザの代わりにデバイスを認証し、プロビジョニングすることができます ( 認証コードを設定している場合 ) 。

### No Authentication Required

このモードでは、デバイスがセルフプロビジョニングされる場合に認証が無効になります。管理者またはエンドユーザがユーザ ID またはセルフプロビジョニング ID をエンドポイントに入力でき、エンドポイントがユーザのアカウントに関連付けられます。このモードは、日常業務には推奨されません。

**Self-Provisioning**

 Save

**Status**

 Status: Ready

**Authentication Mode**

Require Authentication  
In this mode, users may use their password or PIN to authenticate and provision devices based on the permissions in their User Profile.

Allow authentication for users only(via Password/PIN)

Allow authentication for users(via Password/PIN) and Administrators(via Authentication Code)  
Authentication Code

No Authentication Required  
In this mode, authentication is disabled during device self-provisioning. The administrator or end user can enter a user ID or self-provisioning ID.

## ユーザ プロファイル

管理者は、ユーザに関連付けられたユーザ プロファイルで、ユーザのセルフプロビジョニング動作を設定できます。ここでは、ユニバーサル デバイス テンプレートとユニバーサル回線テンプレートを指定します。また、この機能をエンドユーザに対して有効にするために、[Allow end user to provision their own phones] チェックボックスがオンになっていることを確認してください。ここでは、ユーザ プロファイルをデフォルトのシステム ユーザ プロファイルとして使用することも選択できます。

<b>User Profile</b>	
Name*	<input type="text" value="Selfpro"/>
Description	<input type="text"/>
<input type="checkbox"/> Make this the default User Profile for the system	
<b>Universal Device Template</b>	
Desk Phones	 <input type="text" value="Auto-registration Template"/> <a href="#">View Details</a>
Mobile and Desktop Devices	 <input type="text" value="Auto-registration Template"/> <a href="#">View Details</a>
Remote Destination/Device Profiles	 <input type="text" value="Auto-registration Template"/> <a href="#">View Details</a>
<b>Universal Line Template</b>	
Universal Line Template	 <input type="text" value="Sample Line Template with TAG usage examples"/> <a href="#">View Details</a>
<b>Self-Provisioning</b>	
<input checked="" type="checkbox"/> Allow End User to Provision their own phones	
Limit Provisioning once End User has this many phones	<input type="text" value="10"/>

## エンドユーザ

ユーザは、プライマリ エクステンションとユーザ プロファイル (セルフプロビジョニングが許可されている) を持つ標準 Cisco CallManager (CCM) エンドユーザである必要があります。

**-User Information-**

User Status: Active Local User

User ID\*: self

Password: .....

Confirm Password: .....

Self-Service User ID: 1013

PIN: .....

Confirm PIN: .....

Last name\*: pro

User Profile: Selfpro

---

**-Service Settings-**

**Permissions Information**

Groups	Standard CCM End Users
Roles	Standard CCM End Users Standard CCMUSER Administration

時間を節約するために、ユーザ/電話機クイック追加機能によってエンドユーザを作成することもできます。[User Management] > [User/phone add] > [Quick user/phone add] の順に選択します。ここで、ユーザプロフィールが機能グループテンプレートを介してエンドユーザに関連付けられます。

[User Management] > [User/phone add] > [Feature Group Template] の順に選択して、機能グループテンプレートを作成します。ここには、要件に基づいて指定できる複数の設定がありますが、セルフプロビジョニング機能に関して重要なものはユーザプロフィールです。

## Feature Group Template

Name \* self\_fg

Description

### Features

- Home Cluster
- Enable User for Unified CM IM and Presence (Configure IM and
- Include meeting information in Presence(Requires Exchange Pr

Services Profile Use System Default [View Details](#)

User Profile Selfpro [View Details](#)

機能グループ テンプレートを設定したら、ユーザ/電話機クイック追加機能を使用して新しいユーザを作成します。

## User Information

First Name

Middle Name

Last Name \*

User ID \*

Feature Group Template \*

[View Details](#)

## Access Control Group Membership

User is a member of:



## Credentials

Use default credential

Password

Confirm Password

PIN

Confirm PIN

## Extensions

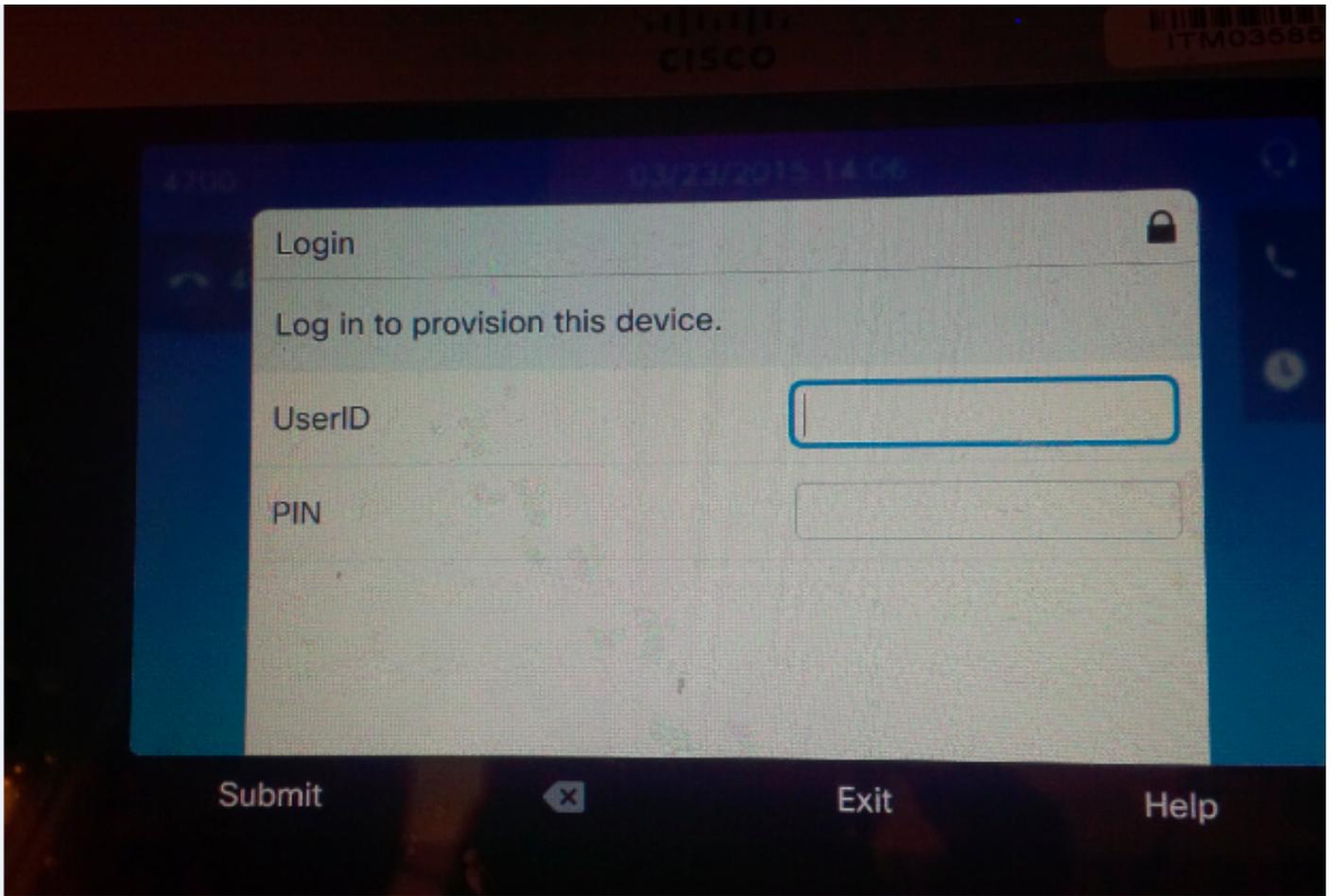
Order Extension

1

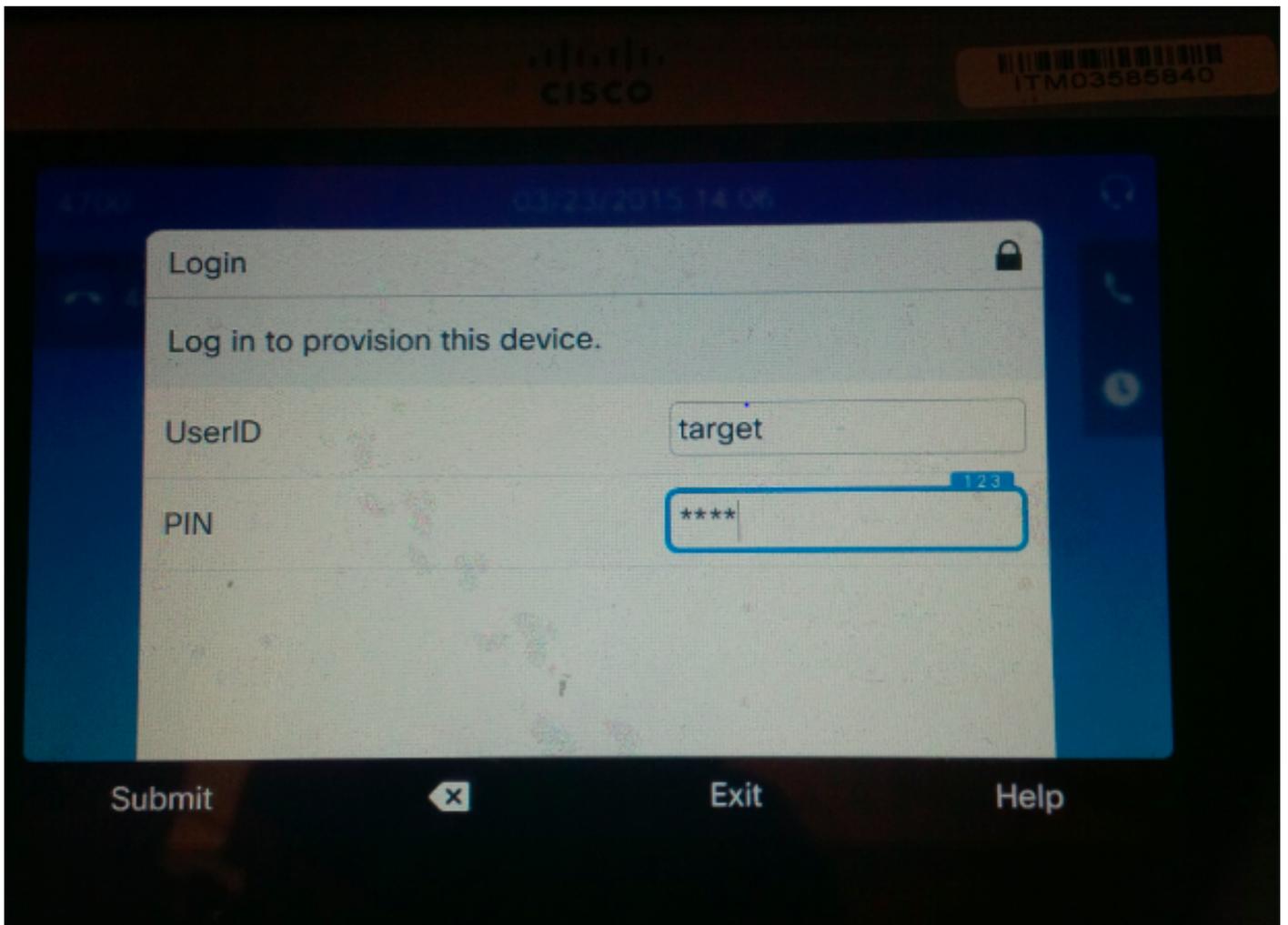
姓、ユーザ ID、グループ メンバーシップ、およびクレデンシャルが必要です。 [User management] > [User settings] > [Credential policy default] で設定される詳細なクレデンシャルを使用することも選択できます。

## 電話機のエンド ユーザ エクスペリエンス

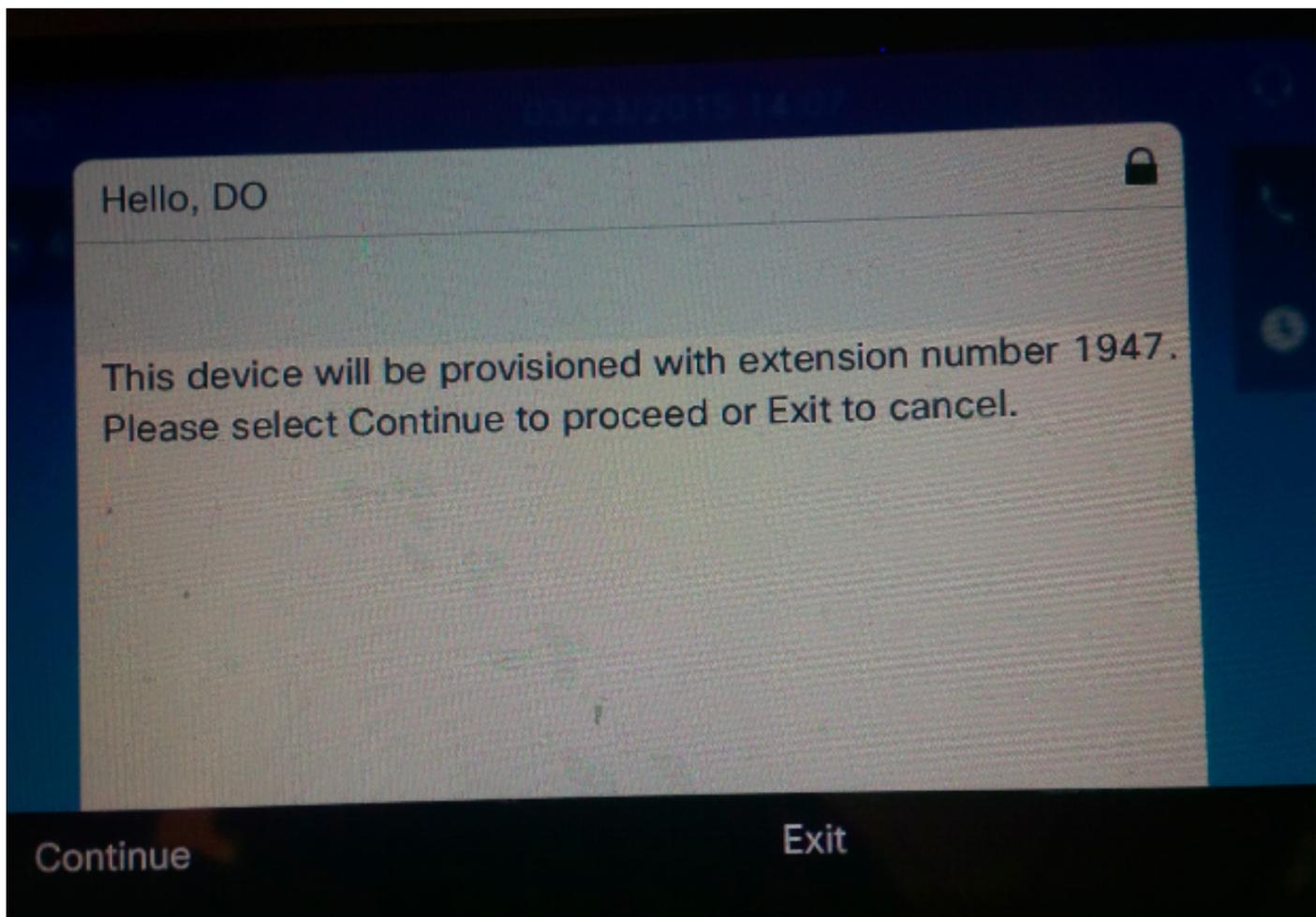
電話機が自動登録されると、電話機に設定されたアイドル URL によって次のログイン プロンプトが呼び出されます。



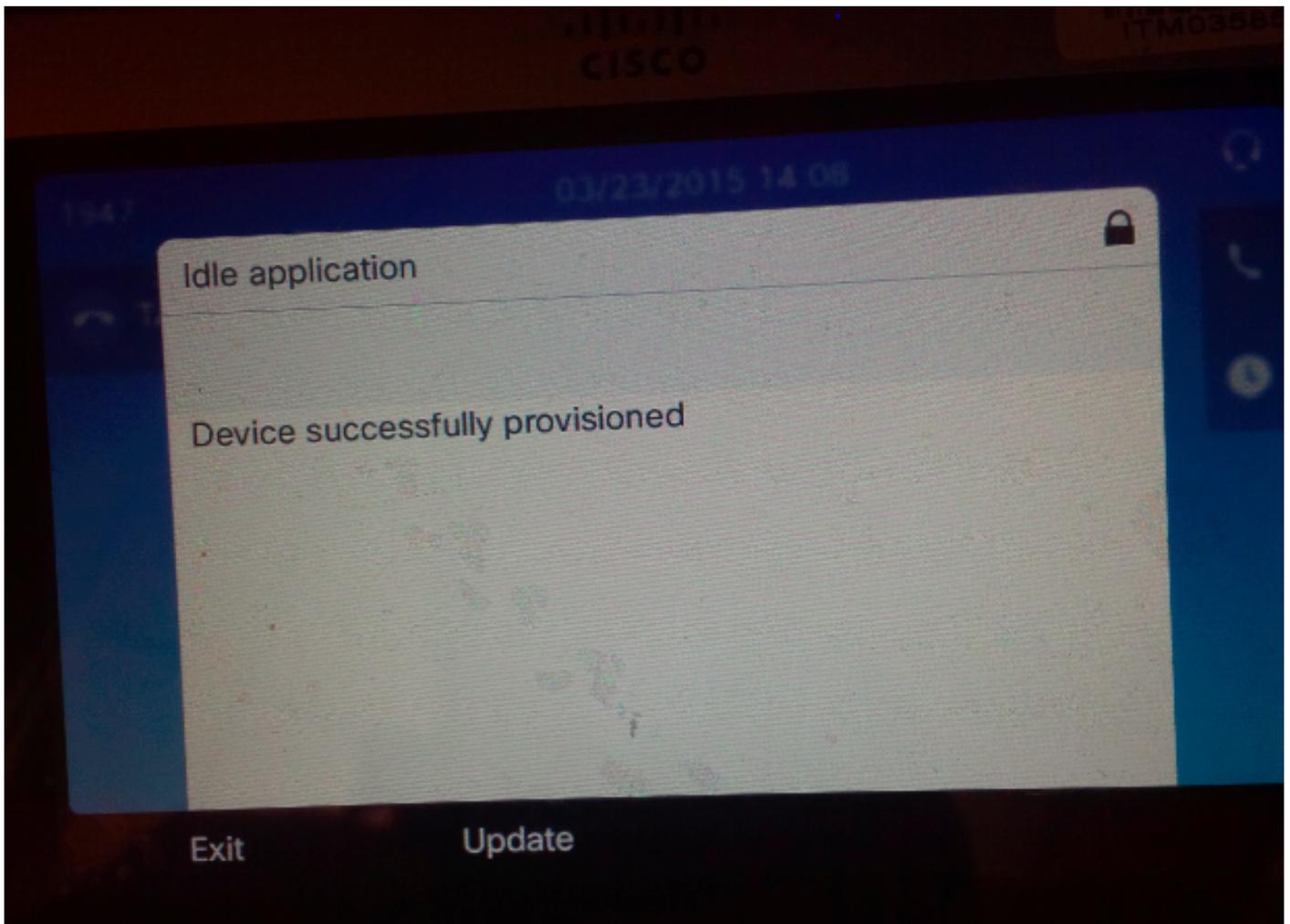
ユーザは、ユーザ ID と PIN を入力します。



ユーザがセルフプロビジョニング用に設定されている場合は、エンドユーザ ページのセルフサービス ユーザ ID またはユーザ/電話機クイック追加ページで設定された内線番号によって電話機がプロビジョニングされます。



[Continue] を押します。デバイスがプロビジョニングされ、次の画面が表示されます。



## トラブルシューティング

ここでは、電話機クライアントによって返されるいくつかの一般的なエラーメッセージを示します。

- SELFPROV\_NOT\_ALLOWED ユーザのユーザ プロファイルで [Self-Provisioning] チェックボックスがオンになっているかどうかを確認してください。
- SELFPROV\_DEVICE\_LIMIT ユーザの所有デバイスがすでに上限に達しています。
- INVALID\_DEVICE\_MODEL 指定されたデバイス モデルが無効です。
- MODEL\_PHONETEMPLATE\_NOT\_FOUND 必要な UDT が設定されていません。
- login failure!DB-239 Could not insert new row - duplicate value in a UNIQUE INDEX column (Unique Index:assign) 電話機のデータベースに重複するエントリが存在します。root により、そのエントリをデータベースから削除してください。電話機に関して他のメッセージが表示される場合も、それらは問題のトラブルシューティングに役立つため、常にメモしておいてください。UDS ( ユーザ データ サービス ) に関するさらなるトラブルシューティングを実行するために、Real-Time Monitoring Tool ( RTMT ) からシスコのストアード プロシージャトレースをダウンロードできます。